

世界と日本の生物多様性総合評価発表記念シンポジウム

生物多様性のいま —いのちの共生を、未来へ—

平成22年
5月10日(月)
13:30 ~ 17:00
(受付:12:30~)

日英
同時通訳

© B. Y. L. Wong

国連大学本部3階 ウ・タント国際会議場

© K. Takeuchi



私たちの暮らしを支える生物多様性、今年は、その損失速度を“2010年までに顕著に減少させる”とした「生物多様性条約2010年目標」の目標年にあたります。

この重要な年に、日本と世界の生物多様性を評価する2つの報告、「地球規模生物多様性概況第3版(GB03)(生物多様性条約事務局)」と日本の「生物多様性総合評価報告(生物多様性総合評価検討委員会)」がまとめられました。

本シンポジウムでは、これらの結果を公表するとともに「SATOYAMAイニシアティブ」等、日本の取組を紹介し、さらに、国内外の有識者によるパネルディスカッションを開催し、これらの報告を受けて、「生物多様性の主流化」に向けた社会のあり方を参加者とともに考えます。

主催： 環境省、国連大学、国連環境計画、生物多様性条約事務局

後援： 外務省

協力： 地球環境パートナーシッププラザ(GEOC)

プログラム(敬称略)

13:30 - 13:45

冒頭挨拶

- ・ 環境省
- ・ パク ヨンウ(国連環境計画アジア・太平洋地域事務所長)
- ・ 武内 和彦(国連大学副学長)

13:45 - 14:00

ビデオメッセージ

- ・ アフメッド・ジョグラフィ(生物多様性条約事務局長)

14:00 - 15:20

プレゼンテーション

- ・ A.H.ザクリ(マレーシア政府科学顧問 / GBO3科学審査パネル共同議長)
『GBO3とポスト2010年目標』
中静 透(東北大学大学院生命科学研究科教授 / 生物多様性総合評価検討委員会座長)
『日本の生物多様性総合評価について』
- ・ 渡邊 綱男(環境省大臣官房審議官)
『COP10とその先に向けた日本の取組』

15:40

休憩

15:40 - 17:00

パネルディスカッション — 私たちは今、何をなすべきか —

- ・ コーディネーター: 武内 和彦
- ・ パネリスト:
 - A.H.ザクリ
 - 中静 透
 - 植田 和弘(京都大学大学院経済学研究科・地球環境学学術教授)
 - 吉田 正人(国際自然保護連合日本委員会会長 / 生物多様性条約市民ネットワーク共同代表)
 - 藤田 香(日経BP社 環境経営フォーラム 生物多様性プロデューサー)
 - パク ヨンウ
 - 渡邊 綱男

17:00 -

レセプション

スピーカープロフィール(敬称略)

Zakri Abdul Hamid (ザクリ アブドゥル ハミド)

マレーシア政府科学顧問。2001年から2005年にかけて「ミレニアム生態系評価」の共同議長を務める。フルブライト・ヘイズ・プログラム(1981年)、ロータリー研究財団ゴールドメダル(1999年)、ランカウイ賞(1998年)をはじめ、数多くの賞を受賞。マレーシア科学アカデミー、第三世界科学アカデミー、世界芸術科学アカデミー、イスラム世界科学アカデミーの会員でもある。

中静 透(なかしずか とおる)

1956年、新潟県生まれ。千葉大学卒。理学博士(大阪市立大学)。森林総合研究所主任研究官、京大生態学研究センター教授、総合地球環境学研究所教授を経て東北大学生命科学研究科教授(現職)。専門は森林生態学、生物多様性科学。主な著書に、「Diversity and Interaction in a Temperate Forest Community. Ogawa Forest Reserve of Japan.」Springer-Verlag (共編、共著)、「森のスケッチ(東海大学出版会)」など。

植田和弘(うえた かずひろ)

京都大学大学院経済学研究科教授、同地球環境学学術教授(両任)。経済学博士。工学博士。持続可能な発展のための重層的環境ガバナンスのあり方を研究している。主な著書に、『環境ガバナンス叢書 全8巻』(編集代表、ミネルヴァ書房)、『環境経済学』(岩波書店)、『環境経済学への招待』(丸善ライブラリー)、『廃棄物とリサイクルの経済学』(有斐閣)など。

藤田香(ふじた かおり)

日経BP社環境経営フォーラム生物多様性プロデューサー。東京大学理学部物理学科卒。日経BP社に入社し、「日経エレクトロニクス」で電子デバイスを担当後、「ナショナルジオグラフィック日本版」で世界の自然や文化を取材。2004年から「日経エコロジー」で、生物多様性と企業や、環境問題の科学、環境教育などを取材し、2009年に『生物多様性読本』を発行。2010年から、環境に関する高い企業約170社が集まるコンソーシアム「環境経営フォーラム」で、記者と企画プロデューサーを務める。

吉田正人(よしだ まさひと)

筑波大学大学院人間総合科学研究科世界遺産専攻准教授として、小笠原諸島・琉球諸島の世界遺産登録に取り組むとともに、国際自然保護連合日本委員会会長、生物多様性条約市民ネットワーク共同代表として、COP10への主要課題とりわけポスト2010年目標への提言を行っている。

パク ヨンウ

国連環境計画アジア・太平洋地域事務所所長。自然資源および環境経済学で博士号取得(アイオワ州立大学)。2008年10月に所長に就任する以前は、韓国環境部国際協力局局長(2003-2006年)や、韓国商工会議所(KCCI)持続可能な開発のためのビジネス研究所(BISD)所長(2006 - 2008年)を歴任。持続可能な開発のための大統領諮問委員会(PCSD)の委員(2000-2008年)等も務めた。

渡邊綱男(わたなべ つなお)

環境省大臣官房審議官。東京大学農学部卒業後、環境庁に入庁。その後、長崎県生活環境部自然保護課長、環境庁企画調整局環境影響評価課環境技術調整官、環境省自然環境局自然環境計画課生物多様性企画官、環境省東北北海道地区自然保護事務所長、環境省自然環境局総務課調査官、環境省自然環境局自然環境計画課長を経て、2009年7月より現職。

武内和彦(たけうち かずひこ)

国連大学副学長。2009年1月から同大学に新たに設立されたサステナビリティと平和研究所(UNU-ISP)所長。東京大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻緑地創成学分野教授、東京大学サステナビリティ学連携研究機構(IR3S)副機構長を併任。専門は、自然を活かした地域づくり。アジアの砂漠化や土地荒廃の防止、巨大都市の環境改善も研究している。最近、サステナビリティ学の世界的研究拠点形成に向けて奔走している。